

独立行政法人宇宙航空研究開発機構が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）変更案新旧対照表

| 現行 | 変更後 |
|---|---|
| <p>< 中期目標 > .(略) . 業務運営の効率化に関する事項 1 . ~ 4 .(略) 5 . 評価と自己改革 科学技術の進歩に合わせ、常に社会情勢、ニーズ、経済的観点等を確認しつつ遂行する研究開発の妥当性を評価するとともに、評価結果に基づいて計画の見直しなどに的確にフィードバックする。</p> <p>. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 . 自律的宇宙開発利用活動のための技術基盤維持・強化 (A) 宇宙輸送系 (1) ~ (4) (略) (5) LNG 推進系 次世代基幹ロケットのキー技術の有力な候補である LNG 推進系の技術を確立することを目的として、<u>LNG 推進系の研究開発を行い、民間主導で開発される中小型衛星打上げ用の GX ロケットの第 2 段を活用した、LNG 推進系の飛行実証を行う。</u> (6) (略) (B) ~ (C) (略) 2 . 宇宙開発利用による社会経済への貢献 (A) (略) (B) 国民生活の質の向上 (1) ~ (3) (略)</p> | <p>< 中期目標 > .(略) . 業務運営の効率化に関する事項 1 . ~ 4 .(略) 5 . 評価と自己改革 科学技術の進歩に合わせ、常に社会情勢、ニーズ、経済的観点等を確認しつつ遂行する研究開発の妥当性を評価するとともに、評価結果に基づいて計画の見直しなどに的確にフィードバックする。<u>また、LUNAR-A プロジェクトのように中止した事例等があることに鑑み、プロジェクトについては、経営層によるプロジェクト管理を強化する。</u></p> <p>. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 . 自律的宇宙開発利用活動のための技術基盤維持・強化 (A) 宇宙輸送系 (1) ~ (4) (略) (5) LNG 推進系 次世代基幹ロケットのキー技術の有力な候補である LNG 推進系の技術を確立することを目的として、<u>民間主導で開発される中小型衛星打上げ用の GX ロケットの第 2 段を活用した、LNG 推進系の飛行実証に向け、LNG 推進系の研究開発を行う。</u> (6) (略) (B) ~ (C) (略) 2 . 宇宙開発利用による社会経済への貢献 (A) (略) (B) 国民生活の質の向上 (1) ~ (3) (略)</p> |

| 現行 | 変更後 |
|---|---|
| <p>(4) 測位 国内測位ユーザの利便性の向上、衛星測位技術基盤の習得及びその利用の高度化を目的として、<u>民間主導の準天頂衛星計画に参加することにより高精度測位実験システムの開発を実施する。</u> また、これに先立ち ETS- を用いて、静止軌道上での高精度軌道決定や地上との間の時刻管理等の実証を行う。</p> <p>3 .国際宇宙ステーション事業の推進による国際的地位の確保と持続的発展</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) JEMの開発・運用 (a) JEMの<u>打上げ・初期運用</u> JEM の開発、打上げ、軌道上組立、軌道上検証を安全かつ確実に実施する。 (b) (略)</p> <p>(c) 民間活力の導入 我が国の ISS 計画を効果的かつ効率的に実施するため、JEM 定常運用段階における運用業務及び利用サービス提供業務への積極的な民間活力の導入に向けて、<u>初期運用段階において着実に準備を進める。</u></p> <p>(3) JEM 搭載実験装置の開発 JEM 等に搭載する実験装置並びに共通的な利用技術の開発を行い、<u>それらの軌道上検証を実施する。また、JEM の初期利用段階で実施すべきテーマによる軌道上実験を行う。</u></p> <p>(4) (略)</p> | <p>(4) 測位 国内測位ユーザの利便性の向上、衛星測位技術基盤の習得及びその利用の高度化を目的として、<u>「準天頂衛星システム計画の推進に係る基本方針」(平成 18 年 3 月 31 日測位・地理情報システム等推進会議)</u>に基づき、高精度測位実験システムの開発を実施する。 また、これに先立ち ETS- を用いて、静止軌道上での高精度軌道決定や地上との間の時刻管理等の実証を行う。</p> <p>3 .国際宇宙ステーション事業の推進による国際的地位の確保と持続的発展</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) JEMの開発・運用準備 (a) JEMの<u>開発</u> JEM の開発を<u>確実に実施する。</u> (b) (略)</p> <p>(c) 民間活力の導入 我が国の ISS 計画を効果的かつ効率的に実施するため、JEM 定常運用段階における運用業務及び利用サービス提供業務への積極的な民間活力の導入に向けて、<u>着実に準備を進める。</u></p> <p>(3) JEM 搭載実験装置の開発 JEM 等に搭載する実験装置並びに共通的な利用技術の開発を行う。</p> <p>(4) (略)</p> |

| 現行 | 変更後 |
|---|--|
| <p>(5) セントリフュージの開発等 JEM 打上げ費用の代替として、NASA へ引き渡す生命科学実験施設(セントリフュージ)の開発を行うとともに、<u>H- A 標準型 1 機の打上げを実施する。</u></p> <p>4 . ~ 1 3 . (略)</p> <p>. ~ . (略)</p> | <p>(5) セントリフュージの開発等 JEM 打上げ費用の代替として、NASA へ引き渡す生命科学実験施設(セントリフュージ)の開発を行う。</p> <p>4 . ~ 1 3 . (略)</p> <p>. ~ . (略)</p> |

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の中期目標の変更理由

1. JAXA経営層によるプロジェクト管理の強化を記載

宇宙開発プロジェクトについては、技術開発リスクが高いこともあり、開発費が当初計画より増加する傾向がみられる。このような状況を受け、より一層プロジェクト管理を強化することが求められており、その旨を中期目標に記載する。

2. 「準天頂衛星システム計画の推進に係る基本方針」の策定に伴う変更

平成18年3月に測位・地理情報システム等推進会議で策定された「準天頂衛星システム計画の推進に係る基本方針」において、準天頂衛星システム計画について、第1段階として、官が中心となって初号機の準天頂衛星による技術実証・利用実証を推進する計画となったため、中期目標を変更する。

3. LNG推進系の研究開発計画の見直しに伴う変更

昨年9月より宇宙開発委員会において、技術的課題の対策の方向性、開発計画等について「中間評価」を実施し、11月に報告書が取りまとめられた。この評価結果を踏まえて開発を推進するため、中期目標を変更する。

4. 国際宇宙ステーション（ISS）計画の見直しに伴う変更

米国による計画見直し後のISSの完成形態および組立順序が国際パートナー間で了承され、昨年11月には具体的な打ち上げ時期について関係各国で合意された。国際約束に基づくISS計画の変更に伴い、JAXA業務を変更する必要があるため、中期目標を変更する。